

7月は国民年金保険料免除・納付猶予申請の更新月です

問合せ・申請先
 ▶本庁保険年金課国民年金G(内線 2821)
 または各支所、甌島振興局
 ▶川内年金事務所 ☎(22)5276

※国民年金の加入対象者は、20歳以上60歳未満の農業者、自営業者、学生、無職の方などです。

- 国民年金は自分には関係ないと、保険料を未納にしていますか？
- 保険料を未納のままにしていると将来的に老齢基礎年金や障害、死亡といった不慮の事態で、年金を受け取れない場合があります。そのようなことにならないよう、保険料を納めることが難しい方は「免除・納付猶予」制度を利用しましょう。



◀国民年金保険料の免除・猶予・追納



◀個人の方の電子申請(国民年金)

国民年金の保険料を納めることが難しい方に知ってほしい4つの制度

経済的に保険料が納められない方に「申請免除」制度

収入の減少や失業などにより保険料を納めることが経済的に難しい場合、保険料の全額または一部を免除

20歳以上の学生の方に「学生納付特例」制度

学生で前年所得が基準以下の場合、在学期間中の保険料の納付を猶予

50歳未満の方に「納付猶予」制度

50歳未満の方(学生以外)で、保険料を納めることが経済的に難しい場合、保険料の納付を猶予

「産前産後免除」制度

「保険料免除された期間」も保険料を納付したものととして老齢基礎年金の受給額に反映(平成31年2月1日以降の出産が対象)

市長の防災に対する意識や心掛けていることを教えてください。

市長 24時間365日、常に防災の意識を持っています。携帯電話は、夜中でも通知が来たらすぐに確認ができるように、肌身離さず持っています。

大雨や台風が接近するときなどは、災害が起こる前に率先して市役所に登庁し、即対応できるようにしています。市民の皆さんへ情報を少しでも早く届けることができるように情報収集などを行うことができます。防災無線を使っている声で伝えることもできます。令和3年8月から市公式LINEを導入したことで、瞬時に情報を提供できるようになりました。

防災に関して、市民へメッセージをお願いします。

市長 まずは「自助」、自分の身は自分で守るという意識、次は「共助」、助け合う、支え合う、声を掛け合うという意識が大切です。

いつ起こるか分からない災害。これからの季節は梅雨や台風などをきっかけに災害が起こり得ることも考えられます。

そこで今月は、防災についての市長の考えをインタビューしていきます。

市長と振り返る
 薩摩川内市誕生20周年 vol.4



▲防災点検の様子

問合せ先
 本庁秘書広報課
 企画総務・広聴広報G
 (内線 4122)

今回は、防災に対する市長の意識や、自助、共助のために私たちがどのようなことを意識しておくべきかなどが分かりました。

次回は、市長が思う本市の魅力に迫ります。

あとは、最近では地震や線状降水帯などの突発的な災害が多くなっています。防災マップを更新し、全世帯配布するなどの防災における啓発の改善を行っていますので、避難場所や危険な場所などを知っていただいで、自助や共助のために役に立ててもらいたいと思います。

「誰一人取り残さない」持続可能という意識のもと、寄り添い、守る姿勢で、防災にも一緒に取り組んでいけたらと思っています。



人のとなりに

今村 聡さん

梅雨の時期に入ると、大雨や長雨によって災害が起こりやすくなります。いつ起こるか分からない災害には日頃の備えが必要です。

今回は、気象予報士の資格を持ち、本市の防災に深い関わりのある、防災気象アドバイザーの思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…
 文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

薩摩川内の気候と今年の気象予報

「薩摩川内市は東シナ海に面しているため、風の影響を受けやすく、梅雨時期は南西風の影響で大雨になることが多い。冬は冷たく乾燥した季節風の影響を受けるため日本海側に近い気候になり、曇りの日が多い」と言います。

「現時点(5月2日現在)では、台風がまだ発生していないため、

子どもの頃から地球や宇宙に関することが好きだったと語るのは気象予報士であり、本市の防災気象アドバイザーを務める今村聡さん。「大学時代は地学について学び、卒業後は地学とは関係のない職に就いたが、30歳を機に大学で学んだ知識を活かしたい」と思い、気象予報士を目指した」と言います。資格取得に向け勉強に励んだ今村さんは、難関とされている気象予報士試験に合格されたそうです。

鹿児島市で16年間気象キャスターを務め、その後本市に移住し、現在本市の防災気象アドバイザーとして災害対策本部を設置した際に、気象情報のアドバイザーと災害リスク評価を行っています。

過去の統計から台風が日本に短い期間に多く来る可能性が高い。さらに、梅雨に入っても台風が発生しなければ、前線が同じ場所に停滞して長雨がより顕著になる恐れがある」と今後の気象予報を教えてください。

また、「近年は地球温暖化などを原因とした異常気象にも注意が必要」と言います。

「命を守る」防災アドバイス

「まずは自助として、自身の『避難スイッチ』を決めておくことが大事。雨量が1時間に50ミリメートルを超えると非常に激しい雨とされており、例えば、自宅でコップなどを使用して雨量を計測し、10分で水深10ミリメートルを超える雨が降ったら避難するなどの客観的な目安を作っておくと良い」とのこと。さらに、「共助として、地域コミュニティの力を高めること。自治会へ加入し、地元の行事への参加などを通して『顔が見える関係性』を築くことができれば、災害時に助け合うことができる。また、住んでいる場所によって災害リスクは異なるので、市が配布している『防災マップ』を見て、居住地域にどのようなリスクがあるのか事前に把握することも重要」と言います。

災害時に役立つ防災グッズで、

「命を守る」防災アドバイス

「まずは自助として、自身の『避難スイッチ』を決めておくことが大事。雨量が1時間に50ミリメートルを超えると非常に激しい雨とされており、例えば、自宅でコップなどを使用して雨量を計測し、10分で水深10ミリメートルを超える雨が降ったら避難するなどの客観的な目安を作っておくと良い」とのこと。さらに、「共助として、地域コミュニティの力を高めること。自治会へ加入し、地元の行事への参加などを通して『顔が見える関係性』を築くことができれば、災害時に助け合うことができる。また、住んでいる場所によって災害リスクは異なるので、市が配布している『防災マップ』を見て、居住地域にどのようなリスクがあるのか事前に把握することも重要」と言います。

「命を守る」防災アドバイス

「まずは自助として、自身の『避難スイッチ』を決めておくことが大事。雨量が1時間に50ミリメートルを超えると非常に激しい雨とされており、例えば、自宅でコップなどを使用して雨量を計測し、10分で水深10ミリメートルを超える雨が降ったら避難するなどの客観的な目安を作っておくと良い」とのこと。さらに、「共助として、地域コミュニティの力を高めること。自治会へ加入し、地元の行事への参加などを通して『顔が見える関係性』を築くことができれば、災害時に助け合うことができる。また、住んでいる場所によって災害リスクは異なるので、市が配布している『防災マップ』を見て、居住地域にどのようなリスクがあるのか事前に把握することも重要」と言います。



▲災害対策本部会議での様子

未来に向けて

普段はテニスの試合や、宇宙に関する映画や動画を見るのが好きだという今村さん。

現在は川内川あらし協議会会長を務めており、川内川あらしの世界自然遺産登録に向けて活動しています。そこで「まずは皆さんにこのような活動を知ってもらいたい」と熱い思いを語ってくれました。